

五木地域における林業の成長産業化に向けた 全体構想の骨子（案）

平成28年1月

全体構想検討委員会

目次

1. 五木地域を取り巻く状況
 - (1) 五木地域の森林・林業
 - (2) 五木地域森林共同施業団地
2. 全体構想の基本的な考え方
 - (1) ねらい・位置づけ
 - (2) ビジョン（目指すべき姿）
 - (3) 重点課題
3. 五木地域における林業の成長産業化に向けて取り組むべき事項（7つのアクション）
4. 推進体制
 - (1) 運営会議及び部会
 - (2) 隣接する林地等との連携
 - (3) 効果の検証
5. 協定者および関係者が果たす役割

事 項	骨 子
<p>2. 全体構想の基本的な考え方</p> <p>(1) ねらい・位置づけ</p> <p>全体構想（マスタープラン）策定のねらい</p> <p>全体構想の位置づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五木地域の森林共同施業団地をモデル地域として、九州及び全国における林業の成長産業化を牽引するべく、民有林や国有林を管理・経営する協定者をはじめ、広く関係者等が連携して、課題の共有、協力体制の確立を行い、有機的・総合的に取組を推進。 ・ シームレスでスケールメリットを活かした森林整備をすすめ、五木地域の林業の成長産業化を実現。 ・ 全体構想は、施業の集約化や路網整備、高性能林業機械の導入等による生産性の向上等を目指して、今後、五木地域の森林共同施業団地において行うべき取り組みを総合的・体系的にとりまとめるもの。 ・ 策定後、協定者による連携のもと、この全体構想の趣旨や目標に基づき、具体的な活動を展開。

事 項	骨 子
(2) ビジョン (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="1093 268 1550 347">○ ●年までに素材生産量を●● (●年 ●m3 → ●年 ●m3) <li data-bbox="1093 402 1644 481">○ ●年までに林業での総生産額を●● (●年 ●千円 → ●年 ●千円)

事 項	骨 子
<p>(3) 重点課題</p> <p>重点課題 1 : 森林情報の一層の共有・活用の推進</p> <p>重点課題 2 : 適切な森林整備及び林業の生産性向上に必要な路網整備の戦略的展開</p>	<p>五木地域の林業の成長産業化の実現に向けて、協定者をはじめとする広範囲な関係者の力を結集し、ビジョンを共有して、各課題の解決に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協定対象森林の林況や路網など、各協定者や行政機関等の連携により、森林情報の共有化を実施。 ・ 共有化された森林情報の活用により、施業集約化や路網整備、高性能林業機械の導入等について戦略的に展開。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協定対象森林の基本的な情報をまとめた共通図面等を作成(平成28年度中に着手) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施業集約化を進めていくための基幹的なインフラである路網の整備について、森林・林業を取り巻く情勢の将来変化を見据えながら戦略的に展開。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協定者間の更なる路網の連結についても検討(平成28年度より部会等において検討) <p>(達成すべき水準)【P】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路網密度 ●m/ha </div>

事 項	骨 子
<p>重点課題3：生産・流通コストの低減と収益の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原木供給コストの低減により、施業集約化、主伐・再造林の循環を確実なものとして原木の供給力を拡大。 ・ 特に、循環利用を図る森林での再造林については、その確実な実施に不可欠な低コスト化を図るため、伐採・造林の一貫作業システム等の積極的な導入や施業技術の開発・実証等により、主伐から造林・保育までトータルとしてコスト縮減を推進。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原木の仕分け・選木機能の強化に向けた中間土場の活用、協調出荷やシステム販売等について検討(平成28年度より部会等において検討) ・ 高性能林業機械の共同での運用(平成28年度より部会等において検討) ・ コンテナ苗を活用する伐採・造林の一貫作業システムの積極的な導入(平成28年度より部会等において検討) <p>(達成すべき水準)【P】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 素材生産 ●m3/人日以上 ・ 主伐～造林・保育 従来(平成●年)より●割以上のコスト縮減 </div>

事 項	骨 子
<p>3. 五木地域における林業の成長産業化に向けて取り組むべき事項（7つのアクション）</p> <p>① 森林情報の共有・活用</p> <p>② 路網整備の戦略的展開</p> <p>③ 生産・流通コストの低減</p>	<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種取組の戦略的展開に不可欠な森林情報の共有・活用 <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林況や路網等の基本的な情報をまとめた共通図面の作成 ・ 森林資源情報を一元管理する森林管理システムの構築 ・ 施業計画や施業履歴のGIS化 <p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高い生産性を実現する作業システムを想定した路網の構築 <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地形・地質、森林の状態や森林の経営方針などを勘案した中長期的な路網計画の作成（路網の連結や規格の統一についても検討） ・ 各取組については、部会での議論等を踏まえ、順次、実行に移行（地方公共団体等の財政事情にも配慮しつつ取組を推進） <p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原木供給コストの低減による原木供給力の拡大 <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原木の仕分け・選木機能の強化に向けた中間土場の活用（未利用材の効率的な搬出についても検討） ・ 協調出荷やシステム販売等の取組の拡充 ・ 高性能林業機械の共同での運用

事 項	骨 子
④ 主伐から造林・保育に係るトータルコストの低減	<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 循環利用を図る森林での確実な再造林の実施 <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンテナ苗を活用する伐採・造林の一貫作業システムの積極的な導入（花粉症対策苗木による植替え等についても検討） ・ シカ被害対策の強化に向けた取組方策の検討
⑤ 施業技術の開発・実証	<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 植栽、下刈り等の初期の施業コストの大幅な低減 <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下刈りの隔年実施、植栽密度の低減、成長の早い特定母樹や大苗の活用、早生樹植栽等の施業技術の開発及び実証
⑥ 林業事業体の育成	<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経営感覚に優れた素材生産事業体等の育成 <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的な各種計画に基づく、事業の安定的な確保と計画的な事業実施の促進（高性能林業機械の導入等による安全性及び生産性の向上を期待） ・ フィールド等を活かした各種研修の実施
⑦ 新たな需要への対応	<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 変動する木材需要に対する原木の安定的供給体制の構築

事 項	骨 子
	<p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 近隣のマーケット情報を収集しつつ、木質バイオマスのエネルギー利用の進展、CLT等新たな製品の開発・普及や木材輸出の増加など、国産材の需要拡大の動きに対して、中長期的な各種計画に基づき原木を安定的に供給（森林認証材の供給拡大についても検討）

事 項	骨 子
<p>4. 推進体制</p> <p>(1) 運営会議及び部会</p> <p>(2) 隣接する林地等との連携</p> <p>(3) 効果の検証</p> <p>5. 協定者および協力者が果たす役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体構想に基づく取組を着実に推進するため、五木地域森林共同施業団地の運営会議の下に、具体的な取組内容の検討を行うための部会を立ち上げ。順次、実行に移行。 ・ 森林共同施業団地の持つスケールメリットの最大化に向けて、隣接地への働きかけや他の共同施業団地との連携を検討。 ・ 各取組に対する評価手法の検討を行うとともに、各取組について定期的に効果を検証。 ・ 全体構想に基づく取組の推進にあたっては、各協定者がそれぞれの役割を確認した上で主体的に取り組むとともに、相互に連携して取組を進めることが重要。 ・ また、行政機関、森林組合、JAPIC等の協力やフォレスターの参画及び有識者の助言を引き続き取り入れながら、各課題解決に向けた取組を充実。